

経営学部 林理久哉

約2週間に亘り開催されたハンガリーでの水田記念奨学生国際グローバル研修は非常に充実した研修であった。11月からの事前研修を含め、ハンガリーの文化やハンガリー語、プレゼンに対するそれぞれの班のテーマの内容等、研修を通して多くの事を学ぶことができたと考える。さらに現地ではコミュニケーションの重要性を痛感し、学ぶことができた。

まず日本人とハンガリー人との関りである為、公用語が異なり、言葉の壁というものを初めて実感した。日本語と英語を交えて会話をしていたが、語彙力不足で伝えたいことを完璧に伝えられないこともあった。その際は簡単な単語に言い換えることや翻訳アプリを使うなど試行錯誤を繰り返すコミュニケーションであった。初日はこの方法に多少の抵抗感や戸惑いがあり日本人学生同士での会話が多かったと感じる。しかしお互いが相手を思いやりながら話すことで、言葉が詰まり会話が滞ることなどは次第に少なくなった。また、積極的にコミュニケーションを取る姿勢が友情を育むことを促進させたと感じた。市内見学やスケート体験等多くの出来事が良いきっかけになり、それらはプレゼンに対する準備などを円滑に進めるために必要なことであったと考える。友達になり、多くのことを話し笑いあったことは何物にも代えがたい時間であった。これらは現地に行かなければ経験し、学ぶことができなかったため非常に有意義であった。帰国してからもSNSを通して連絡を頻繁に取り合うことができているのは大変嬉しく、今後も続けていきたいと考える。

私は今回のハンガリー研修を通して非常に大切なことを多く学ぶことができた。その為、今後もこの研修を開催し本学の多くの学生に経験してほしいと考える。

最後に、新型コロナウイルスの脅威が完全に無くなったとは言えない状況で、開催について尽力していただいたブダペスト商科大学、訪問先の幼稚園や小学校、城西大学等の関係者各位に感謝したい。

